



スポーツ・レクリエーション・文化活動の拠点として昭和62年から整備が進められてきたもので、今回のエントランス広場、ちびっこゲレンデ等の完成により全面供用開始となりました。式典後に行われた記念行事では、園銘板の除幕式、記念植樹のほか、アトラクションとして東深川保育園とみすゞ保育園の年長園児約50名が遊戯を披露。出席者からあたたかい拍手が贈られました。



**ちびっこゲレンデもお目見え
総合公園完成記念式典**

4月24日、市総合公園完成記念式典が、このたび完成した公園エントランス広場で行われました。同公園は市民の憩いと交流の場



公民館の共催で毎年開催されているもので、今回で29回目を迎えます。会場では、瀬戸崎鯨唄保存会のメンバーと仙崎小学校の児童による「瀬戸崎鯨唄」や仙崎中学校吹奏楽部によるブラスバンド演奏のほか、民謡や和太鼓、日本舞踊、詩吟など仙崎地区で活動する10団体が日頃の練習の成果を披露しました。会場を訪れた約300人の来場者からは、出演団体それぞれの熱のこもった舞台に、会場一杯のあたたかい拍手が贈られていました。



**日頃の練習の成果を披露
仙崎生涯学習発表大会**

5月10日、ルネッサながとで「仙崎生涯学習発表大会」が開催されました。この発表大会は、生涯学習の推進と地域文化



ている伝統行事で、地元関係者など約80人が参列。通鯨唄保存会により「通鯨唄」が奉納された後、向岸寺の松村住職らによる法要が行われました。クジラの胎児を埋葬した「鯨墓」や「鯨位牌」、人間と同様にクジラに戒名をつけた「鯨訃過去帖」とともに、クジラの恩恵に感謝の気持ちを込めて、毎年鯨漁の終わるこの時期に実施されています。



**通向岸寺で鯨回向
クジラの恩恵に感謝**

4月28日、通の向岸寺で、鯨回向が行われました。鯨回向は、捕獲したクジラの霊を慰めるために30年以上前から行われ



式では、松林市長が「大戦から学んだ教訓を深く心に刻み、歴史を語り継ぎ、平和で希望に満ちた長門市となるよう努力していく決意を新たにしました。」と式辞を述べました。そして長門市連合遺族会会長の西岡晴美さんが、「現在の平和と繁栄は、戦争での多くの犠牲の上に築かれたもの。一人一人が歴史の事実を謙虚に受け止め、郷土の繁栄と安泰を構築することが私たちに課せられた使命です。」と追悼のこぼを述べました。最後に全員で献花をして式は終わりました。



**遙かなる英霊をしのんで
長門市戦没者追悼式**

5月19日、ながと総合体育館で「平成20年度長門市戦没者追悼式」が行われました。先の大戦から63年目を迎えた今年の式典には、遺族をはじめ来賓など約390人が出席しました。



海のカヌー「シーカヤック」を体験しました。はじめに陸の上でカヤックへの乗り方からパドルの使い方などを練習しました。その後、一人ずつ海に漕ぎ出しました。この日はあいにく風が強く、流されそうになりました。まっすぐ進んだり曲がったりする練習をしていました。めずらしい海の上のカヌー教室にみなさん楽しそうに取り組んでいました。



**海の上は気分爽快！
シーカヤック体験会**

5月11日、シーカヤック無料体験会が、油谷伊上海浜公園オートキャンプ場で行われました。体験会には市内外から21人が参加し、